

NII

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所

National Institute of Informatics

2026

概要



情報から知を紡ぎだす

国立情報学研究所（NII）は、「情報学」を専門とする国内唯一の学術総合研究所として、長期的な視点に立つ基礎研究から社会課題の解決を目指した実践的な研究まで、総合的に研究を推進しています。同時に、大学共同利用機関として、学術情報ネットワーク（SINET）の構築・運用、学術コンテンツやサービスプラットフォームの提供、研究データ基盤の整備等の事業を展開し、研究から得られた知見と相互にフィードバックすることにより、事業をさらに発展させています。NII は、「研究」と「事業」を両輪として、情報学による未来価値を創成します。

AIによる研究大変革の時代に向けて

黒橋 禎夫

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所 所長



国立情報学研究所(National Institute of Informatics; NII)は、我が国における「情報学に関する総合研究並びに学術情報流通のための先端的な基盤の開発及び整備」を目的として、2000年4月、文部省・大学共同利用機関の一つとして創設されました。その淵源は、学術情報センター(1986～2000年)、東京大学文献情報センター(1983～1986年)、そして東京大学情報図書館学研究センター(1976～1983年)まで遡ることができます。

このように長きにわたり我が国の情報学と学術情報基盤に関わってきたNIIにとって、今は最大のチャレンジの時といえます。2022年11月、OpenAI社から、人と自然に対話できる大規模言語モデル(Large Language Model; LLM)、ChatGPTが発表されました。これを契機に人工知能(Artificial Intelligence; AI)が劇的な進展を続け、研究や社会のありようを変革しつつあります。そもそも、言語は人類を「万物の霊長」たらしめる根源的ツールであったわけですから、それを使いこなす人工物の出現が社会に大きなインパクトを与えるのは当然のことかもしれません。

一年ほど前、2025年2月頃からLLMに備わったDeep Research機能(自律的に情報を探索・統合する能力)は、素朴に対話ができるというレベルではなく、その先にあるAIの無限の可能性を強く感じさせるものでした。その後、研究のアイデア出しのための壁打ち、実験計画の立案、(サイバー空間で可能な範囲なら)コード作成と実験・分析、さらに論文執筆まで、AIによる支援の範囲が広がっています。AIの研究への関与をどの程度許容するかはまだ議論の途上ですが、昨年、2025年10月には、AIが論文の主著者となり、査読にもAIが関与する実験的な国際会議がスタンフォード大学の主催で開催されるに至っています。このような大きな変化は、医療、法実務、ソフトウェア開発など、学

術に隣接する高度専門職の領域でも見られます。

AIにとって最も重要なのはデータですが、そこではオープンデータの考え方が広がりつつあります。我が国でも2025年度から始まった「公的に支援された論文とその根拠データは即時公開する」という施策について、(研究開始から論文成果が生まれるまで時間の遅れがあるものの)今年、2026年からその実施が本格化します。データ公開に対する研究者の意識は分野によって様々ですが、上記の施策や、なによりも、公開されたデータを収集・活用するAIの存在が、この流れを加速することでしょう。

人の能力に匹敵する、または凌駕するAGI(汎用人工知能)やASI(人工超知能)の出現も、AIの進展の加速度を考えるとすぐには起こらないと断言できる状況にはありません。AIが意志を持って人類を滅ぼすようなことは簡単に起こらないとしても、強力なAIの悪用による甚大なインシデントの発生は十分にありえることです。

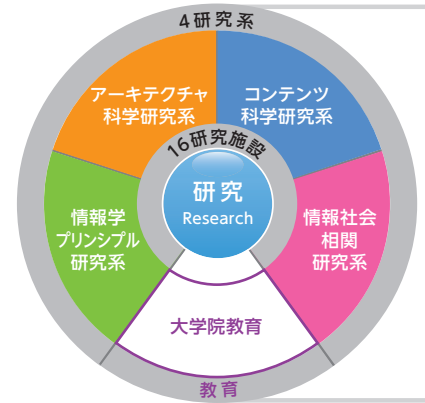
このような時代において、人間の価値とは何か、AIと人類が共存する社会をどのようにデザインして次世代に引き継ぐのか、踏み込んだ議論を始める必要があります。人文・社会科学を含めて学術分野全体を見渡す図書館学を祖とし、さらに、LLMを生み出した情報学の拠点であるNIIには、果たすべき役割が少なくないと感じます。本研究所としては、情報学の知見を結集し、信頼性あるAIの基盤技術の研究と、学術データの流通・活用を支える制度設計の両面から、この変革期に責任ある役割を果たしてまいります。極めて難しい問題ですが、あまり時間はないかもしれません。NIIの創設者である猪瀬博先生が座右の銘とされたギリシャ・ローマ以来の教訓、「Festina Lente(ゆっくり急げ)」をあらためて胸に刻みたいと思います。

「研究」と「事業」を両輪として、情

研究 Research

基礎論から最先端まで総合的に研究

「情報学」は、計算機科学や情報工学だけでなく、人文・社会科学や生命科学など他の領域とも融合し、社会のあらゆる側面に関わる学術領域です。NIIは、4つの研究系と、16の研究施設（センター）を設置して、情報学の基礎論から、人工知能、ビッグデータ、IoT、情報セキュリティなどの最先端のテーマまで、総合的に研究を推進しています。また、海外の大学・研究機関との国際交流や国際連携、研究成果を社会実装へ結び付けるための産官学連携にも力を入れています。



研究系



情報学プリンシプル研究系

アルゴリズムや計算量理論をはじめ、人工知能、ロボティクス、量子計算など、情報学の新しい原理や理論などを追究するとともに、未来の社会を支える新技術の開発や新領域の開拓を目指して研究を行っています。



アーキテクチャ科学研究系

情報技術の基盤的要素であるコンピュータやネットワークなどの高性能化・高品質化・高機能化を目指し、ソフトウェア・ハードウェアのアーキテクチャにおける革新的技術の確立から実用システムの実装までを行っています。



コンテンツ科学研究系

記号メディア、パターンメディアなどのコンテンツやメディアに関する分析・生成等の研究、コンテンツを蓄積・検索・組織化するための基盤技術の研究、人間や知識に軸足を置いたインタラクションやソーシャルメディア解析の研究などを行っています。



情報社会相関研究系

情報世界と現実世界が統合・連携するサイバー・フィジカル融合社会において、科学的な根拠のあるデータに基づいて合理的な意思決定を行うための情報・システム技術と人間科学・社会科学との学際的な研究を行っています。



異なる専門を持つ研究者が連携して特定の研究分野に取り組む

- 学術ネットワーク研究開発センター
- 知識コンテンツ科学研究センター
- 社会共有知研究センター
- クラウド基盤研究開発センター
- データセット共同利用研究開発センター
- ストラテジックサイバーレジリエンス研究開発センター
- オープンサイエンス基盤研究センター
- 研究データエコシステム構築事業推進センター
- トラスト・デジタルID基盤研究開発センター
- 量子情報国際研究センター
- ビッグデータ数理国際研究センター
- 数理的高信頼ソフトウェアシステム研究センター
- 医療ビッグデータ研究センター
- シンセティックメディア国際研究センター
- 大規模言語モデル研究開発センター
- 先端モバイル駆動研究センター

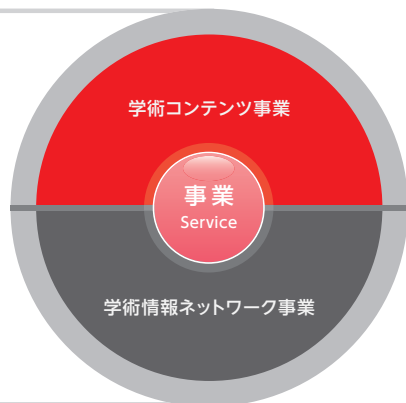
大学院教育 Graduate Program

高度情報社会を担う優れた人材の育成

国立情報学研究所は、「総合研究大学院大学（総研大）への参画」、「他大学院との連携」、「特別共同利用研究員の受け入れ」の3つの形態で大学院教育を実施しています。総研大は、従来の学問分野の枠を超えた独創的、国際的な学術研究の推進や、科学の新たな流れを創造する先導的学問分野の開拓を目指して設立された我が国最初の国立大学院大学です。国立情報学研究所は総研大に参画、情報学コースを設置し、5年一貫制博士課程および博士後期課程の大学院教育を行っています。情報学コースには、6つの教育研究指導分野があり、学生自身がそれぞれに目指す専門性に応じて講義や研究指導を受けることができます。



報学による未来価値を創成します



事業 Service

学術研究基盤や教育活動を支える事業

NIIは、大学・研究機関、研究コミュニティと連携し、学術情報ネットワーク(SINET)を構築・運用しています。SINETの超高速・高信頼・高機能なネットワークを活かし、認証連携基盤、クラウド導入・活用支援、学術コンテンツ基盤の整備・提供、オープンサイエンスを推進する研究データ基盤の開発に取り組むことで、学術研究プラットフォームの整備・提供を進めています。また、大学間連携に基づく情報セキュリティ体制の基盤構築では、国立大学法人等が迅速にインシデント等に対応できる体制の構築に貢献しています。

学術情報ネットワーク(SINET)

～日本全国1,000以上の大学・研究機関等を支える超高速ネットワーク～

先進性

最先端光伝送技術による全都道府県超高速フルメッシュ接続やネットワークスライスによるセキュアなサービスの提供など、最新技術を導入しています。

超高速性

ノード間を接続する回線すべての400Gbps化(一部区間100Gbps)や転送遅延最小化により超高速かつ高性能なネットワークを実現しています。

高機能性

認証連携基盤の整備・提供

大学・研究機関におけるネットワーク上のデジタルID連携基盤およびWebサービスのセキュリティを実現するため、「学術認証フェデレーション(学認)」、「UPKI電子証明書発行サービス」、「feduroam(国際学術無線LANローミング基盤)」を整備し、提供しています。

クラウド導入・活用支援等

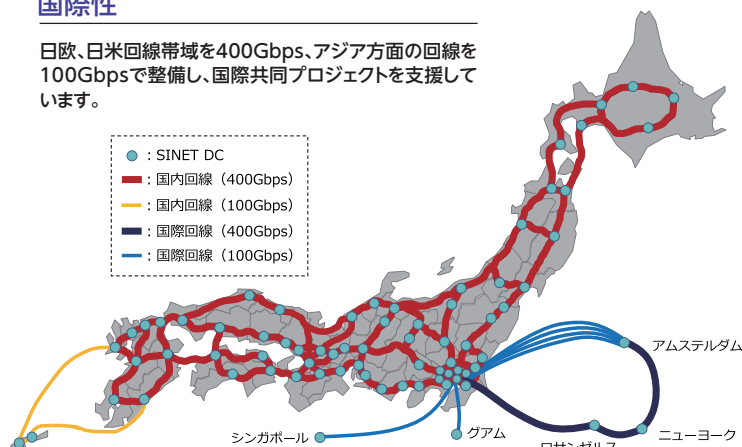
クラウド導入・活用に関わる情報を提供する「学認クラウド導入支援サービス」、クラウドサービスにワンストップでアクセスするための「学認クラウドゲートウェイサービス」、クラウド環境構築をサポートする「学認クラウドオンデマンド構築サービス」、広域データ収集・解析プログラム開発のための「SINETStream」を提供しています。

高信頼性

多階層化された最先端ネットワークアーキテクチャにおいて、各階層ごとに冗長化構成、障害を回避し迂回する方式を導入、これらを連携させて、高信頼なネットワークを実現、提供しています。

国際性

日欧、日米回線帯域を400Gbps、アジア方面の回線を100Gbpsで整備し、国際共同プロジェクトを支援しています。



大学間連携に基づく情報セキュリティ体制の基盤構築(NII-SOCS)

国立大学法人等とNIIが連携し、SINET上にサイバー攻撃を観測・検知・分析するシステムを構築し、かつ、国内外の関係機関との情報共有に基づき、国立大学法人等に攻撃の危険度や緊急度に応じた情報提供を行うほか、セキュリティ担当者の研修を実施しサイバー攻撃への対処能力の高度化を図ることにより、国立大学法人等が迅速にインシデントやアクシデント等に対応できる体制の構築に貢献しています。

研究データ基盤(NII Research Data Cloud)

～オープンサイエンスを推進する研究データの管理・公開・検索サービス～

GakuNin RDM (研究データ管理基盤/データ解析機能) GakuNin RDM

研究者がデータを管理し、共同研究者とのデータ共有や解析までの一連の支援が可能なサービスです。保存されたデータは自動的に証跡管理されるため、研究者の研究公正を保護します。機関の研究データポリシーに適したストレージ等を接続することができます。

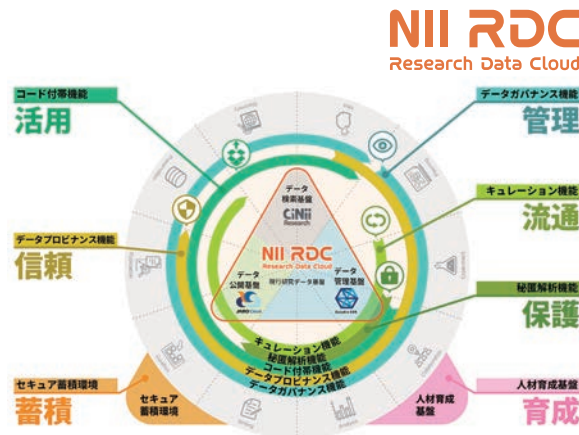
JAIRO Cloud (研究データ公開基盤/共用リポジトリサービス) JAIRO Cloud

学術機関に提供する機関リポジトリのクラウド型サービスです。NIIが開発したりリポジトリソフトウェアを採用しています。研究者が主体的かつ簡単に研究データを公開できる機能を有しており、国内800以上の学術機関が利用しています。

CiNii (学術情報検索サービス)



日本の学術情報を検索できる知識発見のためのWebサービスです。論文や書籍、研究データやプロジェクト情報を横断的に検索できる学術情報検索基盤(CiNii Research)と大学図書館等の所蔵資料検索(CiNii Books)を提供しています。



学認LMS (高等教育機関における共通教材学習管理システム)

研究者や、図書館、URA、基盤センターなどの研究の支援サービスを提供する職員が研究データ管理のスキルを身につけることができる学習環境です。学術機関ごとに学習者の受講状況を管理できる機能も有しています。電子的な受講認定バッジを取得できます。

組織図



産官学連携

NIIは社会課題の解決を目指した実践的な研究開発に取り組んでおり、その成果を社会実装へ結び付けるために産官学の連携を推進しています。企業と協働で研究組織を設置・運営する「共同研究部門」や、「包括連携」、「公募型共同研究」など、産業界や自治体、大学等との連携を積極的に進めるほか、新たな連携や成果活用（ライセンス）の機会創出のため、最先端研究シーズの紹介と企業・社会ニーズを共有するセミナー、研究者による学術指導、IT人材育成などの活動にも取り組んでいます。

国際交流

NIIでは、海外の大学や研究機関との国際的な研究交流活動を組織的に推進するため、グローバル・リエゾンオフィス(GLO)を設置し、国際交流協定(MOU)の締結や、NII国際インターンシッププログラム、MOU Grant/non-MOU Grant(研究交流助成プログラム)を実施しています。また、世界トップクラスの研究者が集まり宿泊形式で情報学分野の課題を集中的に議論する「NII湘南会議」の開催、ドイツ学術交流会(DAAD)および日仏情報学連携研究拠点(JFLI)による研究員の受け入れなども行っています。

NII 沿革

年 月	内 容
昭和 51 (1976) 年	5 月 東京大学情報図書館学研究センター(RCLIS)発足
昭和 58 (1983) 年	4 月 東京大学文献情報センター設置 (情報図書館学研究センターを改組)
昭和 59 (1984) 年	12 月 目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)の運用開始
昭和 61 (1986) 年	4 月 学術情報センター(NACSIS)設置 所在地:東京都文京区(東京大学文献情報センターを改組)
昭和 62 (1987) 年	4 月 学術情報ネットワークおよび情報検索サービス(NACSIS-IR)開始
平成 4 (1992) 年	4 月 目録所在情報サービス(NACSIS-ILL)の運用開始
	4 月 SINETの運用開始
平成 6 (1994) 年	11 月 千葉分館竣工 所在地:千葉県千葉市
平成 9 (1997) 年	3 月 国際高等セミナーハウス竣工 所在地:長野県軽井沢町
平成 12 (2000) 年	2 月 学術総合センター竣工 所在地:東京都千代田区(学術総合センター内に移転)
	4 月 国立情報学研究所(NII)設置 (学術情報センターの廃止・転換)
平成 14 (2002) 年	4 月 総合研究大学院大学の基盤機関として参画
平成 16 (2004) 年	4 月 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構が発足、国立情報学研究所他3研究所を傘下に置く
平成 24 (2012) 年	4 月 JAIRO Cloudの運用開始
令和 2 (2020) 年	10 月 柏分館竣工 所在地:千葉県柏市(千葉分館移転)
令和 3 (2021) 年	2 月 GakuNin RDMの運用開始
	4 月 学術情報検索基盤(CiNii Research)正式公開
	6 月 学認LMSの運用開始
令和 4 (2022) 年	4 月 学術情報ネットワーク(SINET6)および学術研究プラットフォームの運用開始

NII 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 National Institute of Informatics

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター
TEL: 03-4212-2000(代表) <https://www.nii.ac.jp>

■NII動画チャンネル:NIIの講演や研究紹介の映像
www.nii.ac.jp/event/videos

■NII Today:NIIの研究等をわかりやすくご紹介
www.nii.ac.jp/today



柏分館(千葉県柏市)

〒277-0882
千葉県柏市柏の葉6-2-3
TEL: 04-7135-1640(代表)



国際高等セミナーハウス (長野県軽井沢町)

〒389-0111
長野県北佐久郡軽井沢町
大字軽井沢字長倉往還南原
1052-471
TEL: 0267-41-1083



この製品は、適切に管理されたFSC®認証林、再生資源およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。VOC(揮発性有機化合物)石油系溶剤を含まないインキを使用し、有害な廃液を出さない「水なし印刷」で印刷しています。印刷に使用する電力の13.8%はバイオマス発電によるグリーン電力を利用しています。「紙」インキ(加工資材(綴じ具))はいずれも、紙・板紙へのリサイクルにおいて阻害にならないリサイクルランクAの材料を使用しています。



2026年4月

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。